

「赤磐市文化振興ビジョン（素案）」に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

■ 募集期間

平成 29 年 12 月 12 日（金）から平成 30 年 1 月 12 日（金）まで

■ 意見の件数

8 件（2 名）

No.	該当項目	意見の概要	市の考え方
1	全般	<p>○市民全体の日常活動の振興を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一発のイベントは無意味。 ・市全域で、各種の市民活動団体の活性化を図る。 ・教育委員会を主体とした行政との協働による施策。 ・市民団体と協働するボランティアの組織（文化振興プロジェクト）にする。 	<p>本ビジョンを推進していくためには、市民全体の文化振興への意識を高揚していく必要があり、行政と市民団体との協働は不可欠であると考えています。プロジェクトの設立など、今後の参考にさせていただきます。</p>
2	全般	<p>○長期計画（5 年程度）を立てて実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館やふれあい公園、図書館等を拠点として、多くの市民が参加できる施策も必要。 	<p>本ビジョンは、「赤磐市第 2 次総合計画」との整合性を図るため、平成 36 年度までの期間とし、「赤磐市教育振興基本計画」の改定にあわせ、適宜見直しを行っていきます。</p> <p>細かい事業に関しては、3 年計画を立てて実施していくことを考えています。</p>
3	全般	<p>○あかいわ文化祭を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域別、全市、分野別など、例年行事の公民館イベントを母体として、全活動団体の見える化を図る。 	<p>市全体で文化芸術を振興していくうえで、個人・団体の活動を披露、紹介し、市民に知ってもらう場や手段は必要であると考えています。</p> <p>今後、計画を実施していく中で検討させていただきます。</p>
4	P3 2 文化施設の整備と活用	<p>公共施設には必要・不要・どちらでもの 3 種に分類できるが、文化ホールは必要な施設である。県内でホールが無いのは、赤磐市と人口規模が数千人の町村だけである。</p>	<p>現在、市にはコンサートや演劇を上演する 500 人規模の市民ホールが無く、文化振興のためにも、音響・調光設備の整った施設の建設は必要であると考えています。市民</p>

		<p>公民館とホールは、機能が全く違い、公民館は各地域での文化活動の拠点として重要であるが、ホールは赤磐市全体の文化発信拠点であり、赤磐市民全体を対象としたコンサートや演劇を上演するには、250席の公民館では狭すぎる。市内には多くの美術家や写真愛好家がいるが、常設展示場もない。</p> <p>ホールが無いことは、赤磐市の文化後進性を間違えて発していることになり、恥ずかしいことである。</p>	<p>ギャラリーのような展示会場も同様です。</p> <p>ホールの建設については、既存の施設の利用率、開催されるイベントの回数や維持管理費などの費用対効果を考慮しながら、他の施設の耐震化や新設、複合施設としての建設などについて、市長部局と協議しながら、次世代に過度な負担とならないよう、慎重に対応していく必要があると考えています。</p>
5	<p>P3 2 文化施設の整備と活用</p>	<p>福田廉之介氏のリサイタルは、250席のホールでは収容しきれず、チケットは早々に完売となっている。赤磐弦楽愛奏会や赤磐音楽友の会が主催しているコンサートでも、固定席では収容できず、パイプ椅子を並べている状態である。せめて500席の客席を持つホールは必要である。また、オーケストラが演奏できる広さを備えた施設がなく、少なくとも小編成のオーケストラが乗れるステージを備えるホールが必要である。</p>	<p>文化活動を行う芸術家や団体、特に若手芸術家の活躍は、市の文化活動全体の底上げにつながるものと期待されます。上演に際し、芸術鑑賞に堪え得る施設が必要であることは理解していますが、上記4のとおり、市長部局と協議しながら、慎重に対応していく必要があると考えています。</p>
6	<p>P3 4 鑑賞機会の充実</p>	<p>岡山市には500席規模の小ホールがないため、赤磐市にホールがあれば、室内楽、ソロリサイタル等で演奏家を招くことが可能。岡山交響楽団や津山交響楽団等の市民オーケストラの演奏が聴ける可能性もある。</p>	<p>市内外問わず、様々な個人、団体による芸術鑑賞の機会が身近にあることは、市民にとって大変望ましいことであり、そのためにはホールや設備が必要であることは理解していますが、上記4のとおり、市長部局と協議しながら、慎重に対応していく必要があると考えています。</p>

<p>7</p>	<p>P4 6 推進体制の確立と団体の支援</p>	<p>ホール建設後の利用を心配する人も多いと思うが、利用率を高めるには、市民に任せるだけでなく、計画的に利用を促進する文化財団の設立が有効である。岡山市、倉敷市、津山市のホールも文化財団が運営している。</p> <p>真庭エスパス文化振興財団が中心となって運営している久世エスパスホールは、毎年 90%以上の稼働率を維持しており、年間 30 本以上の多彩な文化事業を開催しているとホームページで紹介されているので、参考にしてもらいたい。</p>	<p>本ビジョン策定にあたり、他市町の稼働率が高い施設についても調査をしましたが、ホールだけでなく、他の設備も含めた維持管理費や人件費などの費用対効果も含め、引き続き調査と検討が必要であると考えています。</p> <p>文化財団の設立についても、有効な手段として他市町の運営を参考に、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
<p>8</p>	<p>P5 1 文化財の保護と活用</p>	<p>市民にあまり知られていないが、古代山陽道に「珂磨駅家」と「高月駅家」の駅家が置かれていたことが延喜式に書かれている。この事実を知ってもらうことは、赤磐市民としての一体感の醸成にも役立つと思われる。</p> <p>「高月駅家」には案内板があるが、小さく目立たない。大きい案内板を作成し掲示してもらいたい。</p> <p>発掘調査し、国分寺跡、両宮山古墳とあわせて市民に紹介してもらいたい。</p>	<p>古代山陽道の高月駅家跡・珂磨駅家跡は備前国分寺跡や両宮山古墳とともに赤磐市の歴史を物語る上で重要な遺跡です。しかしながら、発掘調査などが行われていないため、その所在は推定にとどまっています。将来的には、国分尼寺跡を含めて古代山陽道駅家の調査研究が進むよう検討していきたいと考えています。</p> <p>その周知については、歴史講座やパンフレットなどを通して行うよう努めます。</p>